

令和3年1月15日

横浜市長 宛て
横浜市 中 区長 宛て

申告内容について問合せを行う
場合がありますので、
日中に連絡が可能な連絡先を記
載してください。

申告先の区名を
記載します。
申告書は区単位で
作成します。

住所(所在) 横浜市●●区●●●●丁目●●番●●号
氏名(名称) 横浜市役所株式会社
業種名 水運業
代表者氏名 横浜 太郎
連絡先 045-●●●●-●●●●

新型コロナウイルス感染症等に係る中小事業者等の事業用家屋及び償却資産 に対する固定資産税及び都市計画税の課税標準の特例措置

地方税法附則第63条(※)に規定する新型コロナウイルス感染症等に係る事業用家屋及び償却資産に対する固定資産税及び都市計画税の課税標準の特例措置について、令和3年度より適用となります。なお、令和2年12月31日以前は附則第61条

個人の場合は認印を、
法人の場合は代表者印を
押印してください。

事業収入の比較を行う期間及び
事業収入を記載してください。

1 事業収入割合について

令和2年4月6日から同年7月5日 令和2年2月から10月までの連続する3月を記載			令和元(平成31)年4月6日から同年7月5日 左の期間の前年同期を記載		
4月期	5月期	6月期	4月期	5月期	6月期
1,000,000 円	1,000,000 円	1,000,000 円	3,000,000 円	3,000,000 円	3,000,000 円
合計: 3,000,000 円・・・①			合計: 9,000,000 円・・・②		
事業収入割合: <u>33</u> % (① / ②) ※小数点以下切り捨て					

50%以下 (地方税法附則第63条第1項第1号に該当)

(=事業用家屋及び償却資産それぞれについて申告をする場合) 軽減率: 全額

50%以上 (地方税法附則第63条第1項第2号に該当)

(=事業用家屋及び償却資産それぞれについて申告をする場合) 軽減率: 1/2

事業用家屋及び償却資産それぞれについて申告をする
(申告書を作成している)区を○で囲んでください。

2 特例対象資産について (申告を行う区に○をつけて下さい)

資産	該当の区								
事業用家屋 ※1	鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子
	金沢	港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷
償却資産 ※2	鶴見	神奈川	西	中	南	港南	保土ヶ谷	旭	磯子
	金沢	港北	緑	青葉	都筑	戸塚	栄	泉	瀬谷

※1 事業用家屋は、別紙「特例対象家屋一覧」を課税明細書ごとに作成し、添付してください。別紙に記載がない家屋は、特例措置が適用されませんので、ご注意ください。

※2 償却資産は、毎年行われる申告をもって特例対象資産一覧を提出したことになります。(この申告書のほか、令和3年度の償却資産申告書の提出が必要です。)

3 誓約事項について

以下の（１）から（４）について、事実と相違ないことを誓約します。

- （１）「１ 事業収入割合について」に記載した事業収入割合の減少は、新型コロナウイルス感染症及びそのまん延防止のための措置の影響によるものであること。
- （２）申告者は、風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律（昭和23年法律第122号）第2条第5項に規定する「性風俗関連特殊営業」を営んでいないこと。
- （３）（申告者が資本若しくは出資を有する法人である場合、）申告者は、資本金の額若しくは出資金の額が1億円以下であり、かつ、次に掲げる事由のいずれにも該当しないこと。
 - ① その発行済株式又は出資（その有する自己の株式又は出資を除く。②において同じ。）の総数又は総額の2分の1以上が同一の大規模法人（※）の所有に属している法人
 - ② その発行済株式又は出資の総数又は総額の3分の2以上が大規模法人の所有に属している法人※「大規模法人」とは租税特別措置法施行令第27条の4第12項に規定する大規模法人のことをいう。
- （４）（申告者が資本若しくは出資を有しない法人又は租税特別措置法第10条第7項第6号に規定する中小事業者である場合、）申告者

認定経営革新等支援機関等の確認を受け、
必要事項の記入及び押印を受けてください。

【認定経営革新等支援機関等確認欄】

上記1～3の申告内容について、記載どおりである旨確認しました。

住 所 横浜市●●区●●町●●番地●●

名 称 横浜市役所会計事務所

代表者役職 所長

代表者氏名 固定 太郎

印

認定経営革新等支援機関等担当者名 固定 次郎

認定経営革新等支援機関等電話番号 045-●●●-●●●●●●

認定経営革新等支援機関等担当者メールアドレス ●●●●@●●●●.●●●●

（備考）

1. 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。
2. 本申告において、申告すべき事項について虚偽の申告をした者は、地方税法附則第63条第4項又は第5項の規定に基づき1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処される場合があることに留意すること。
3. 「連絡先」については、日中連絡がとれる電話番号等を記載すること。
4. 「氏名（名称）」については、個人事業主にあつてはその氏名を、法人にあつてはその名称を記載すること。
5. 「業種名」については、日本標準産業分類における中分類で記載すること。
6. 本特例の申告にあつては、事前に認定経営革新等支援機関等の確認を受けること。
7. 本特例の申告は令和3年2月1日（月）までに行うこと（消印有効）。

特例対象家屋一覧

課税明細書ごとに作成してください。
事業用家屋を令和2年度の課税明
に沿って記載してください。令和
中の課税明細書に記載のない家屋
家屋番号単位で記載してください

資産所在区	鶴見区
所有者コード※1	00-●●●●●●●●
氏名(名称)	横浜市役所株式会社

3	所在・地番	家屋番号 ※2	4	床面積		R2取得 ※3
				うち事業用		
記入例	〇〇町×丁目△番地□	△-□	134	67.30 m ²	5	※
1	●●町△△番地××	△△-××	3004.80 m ²	1682.88 m ²	56%	
2	××町△丁目◆◆◆◆	◆◆◆◆	400.03 m ²	400.03 m ²	100%	
3	△△町◇丁目××-●●	未登記	129.18 m ²	129.18 m ²	100%	✓
4			m ²	m ²	%	
5					%	
6					%	
7					%	
8					%	
9					%	
10					%	
11					%	
12					%	
13					%	
14					%	
15					%	
16					%	

事業用部分の面積及び割合は、所得税・法人税の
申告書類(青色申告決算書等)から転記します。
令和2年中に新增築した家屋等の場合は、
平面図等から算出した事業用部分の面積
及び割合を記載してください。

課税明細書で「家屋」となっているもののうち、
事業用家屋について必要事項を転記します。
「土地」や事業用家屋以外の「家屋」を記載しても、
特例の適用対象とはなりません。

課税明細書(見本)

令和2年度 課税明細書

2 課税明細書の見方は裏面を御覧ください。

所有者氏名	横浜市役所株式会社 様分													
① 資産	② 所在・地番	③ 負担水準又は家屋番号		④ 軽減相当税額(円) 上2桁は減額事由										
⑤ 現況地目等 又は種類・構造	⑥ 課税地積 床面積 (㎡)	⑧ 前年度固定資産税 (比準)課税標準額(円)	⑩ 固定資産税 本則課税標準額(円)	⑫ 固定資産税 課税標準額(円)	⑭ 固定資産税 相当額(円)	⑦ 価格(円) (評価額)	⑨ 前年度都市計画税 (比準)課税標準額(円)	⑪ 都市計画税 本則課税標準額(円)	⑬ 都市計画税 課税標準額(円)	⑮ 都市計画税 相当額(円)				
土地 ●●町△△番地××		非100%												
宅地	5,000.11	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●		●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●				
土地 ××町△丁目◆◆-◇		非100%												
宅地	156.47	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●		●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●				
家屋 ●●町△△番地××		△△-××												
工場 S造	3,004.80	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●		●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●				
家屋 ××町△丁目◆◆◆◆		◆◆◆◆												
事務所 RC造	400.03	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●		●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●				
1														
所有者コード	00-●●●●●●●●	冊番	●●●●●●●●											

3

4

5

1

特例対象家屋一覧

課税明細書ごとに作成してください。
事業用家屋を令和2年度の課税明細書
に沿って記載してください。令和2年
中の課税明細書に記載のない家屋は、
家屋番号単位で記載してください。

資産所在区	中区
所有者コード※1	30-●●●●●●●●
氏名(名称)	横浜市役所株式会社

No.	所在・地番	家屋番号 ※2	床面積		R2取得 ※3	
				うち事業用		
記入例	〇〇町×丁目△番地□	△-□	134.60 m ²	67.30 m ²	50%	✓
1	△△町×丁目◆◆番地●●	◆◆-●●	1234.56 m ²	864.19 m ²	70%	
2	××町●●町△△番地□	△△-□	150.01 m ²	34.50 m ²	23%	
3			m ²	m ²	%	
4			m ²	m ²	%	
5			m ²	m ²	%	
6			m ²	m ²	%	
7			m ²	m ²	%	
8			m ²	m ²	%	
9			m ²	m ²	%	
10			m ²	m ²	%	
11			m ²	m ²	%	
12			m ²	m ²	%	
13			m ²	m ²	%	
14			m ²	m ²	%	
15			m ²	m ²	%	
16			m ²	m ²	%	
17			m ²	m ²	%	
18			m ²	m ²	%	
19			m ²	m ²	%	
20			m ²	m ²	%	

【記載のポイント】

- ※1 所有者コードは、令和2年度固定資産税・都市計画税納税通知書（土地・家屋）1枚目の左下の「所有者コード」欄の数字を記載すること。なお、令和2年に取得した資産のみを所有している等、令和2年度の当該区の納税通知書が発行されていない場合、所有者コードの記載は不要。
- ※2 未登記の家屋については、「家屋番号」欄に「未登記」と記載すること。
- ※3 令和2年中に取得した資産については、「R2取得」欄に「✓」を記載すること。
- ※4 資産を記載する欄が足りない場合は適宜増やすこと。
- ※5 単有の資産と共有の資産とは、分けて作成すること。

【申告の際の注意点】

- 事業用と居住用が一体となっている家屋については、事業専用割合が分かる資料（青色申告決算書等）を添付すること。
- 認定支援機関等の確認を受けた後、資産の異動・取得等があった場合には、再度提出の上、確認を受けること。